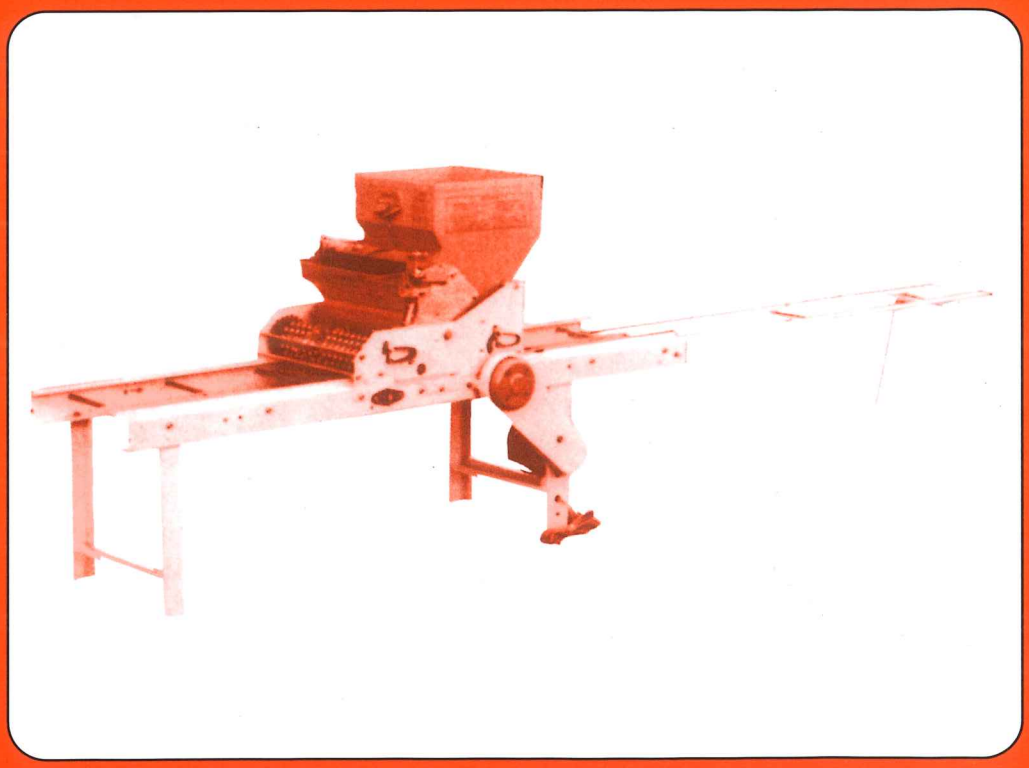
使用する前に必ずよく読んで正しく使いましょう

ポット成苗用

電動ポット播種機

LSPE－1

取扱説明書



播種機重要安全ポイント

1．電源（電源プラグ）は、
交流100Vで使用します。

2．電源プラグやスイッチは、
ぬれた手で触れないようにします。

3．チェーン・スプロケットには、
手や指を近づけないようにします。

4．播種機を点検・調整するときは、
必ず電源プラグを抜きます。

5．補助者と共同作業を行うときは、
合図をし安全を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱して下さい。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは上記の通りですが、これ以外にも本文の中で安全上ぜひ守っていただきたい事項を説明しております。
よくお読みいただいて、必ず守っていただくようお願いいたします。

表　示	重　要　度
⚠ 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しております。
⚠ 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しております。
⚠ 注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものを示しております。
重要	商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。 よく読んで商品の性能を最大限発揮してご使用ください。

■ まえがき

このたびは，ポット播種機をお買いあげいただきましてありがとうございました。

本機は，手軽で播種精度の高いポット播種機として初めて完成されたものです。

この取扱説明書は，ポット播種機の正しい使用方法について説明してあります。

本機のすぐれた性能を十分に発揮して安全に作業していただくため，内容をよくお読みいただくとともに末長くご活用下さい。

■ 目　　次

1．仕　　様……1
2．特　　長……1
3．各部の名称……1
4．オプション部品……1
5．組立方法……2
6．作業前の準備……3
7．播種作業……4
8．取扱上の注意……6
9．保管時の注意……7
10．播種ロールの取替要領……8

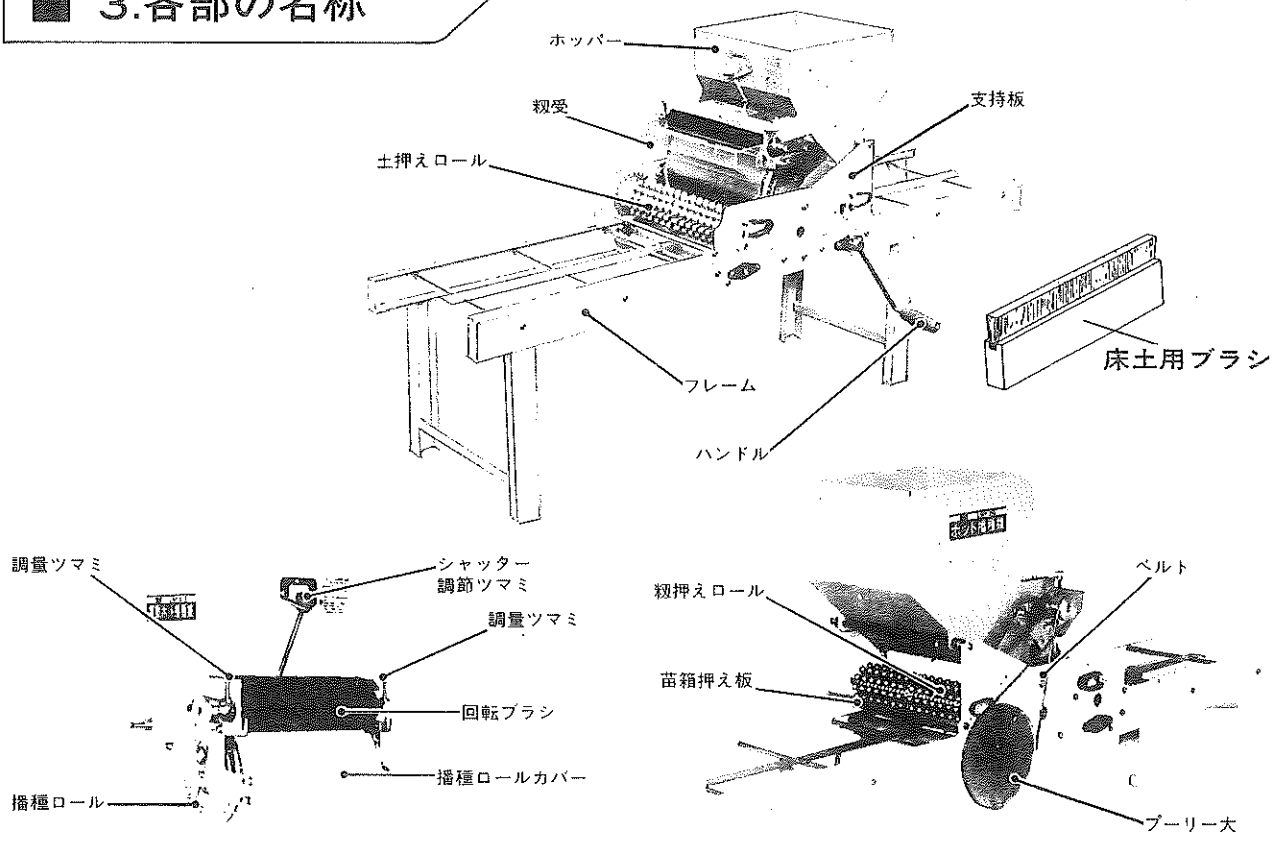
1.仕　　様

名　　称	ポット播種機	ポット薄まき播種機	ポット薄まき播種機
型　　式	ＬＳＰ－２	ＬＳＰ－３	ＬＳＰ－３Ｗ
平均播種量(１ポット当り)	３～４	２～３	２～３
全長×全巾×全高(㎜)	1530×580×810		
重　　量（kg）	30		
能　　率（枚/時）	100		
ホッパー容量　（ℓ）	19		
付　　属　　品	床土用ブラシ(１ケ)	床土用ブラシ(１ケ)	床土用ブラシ(１ケ) 3~4粒まき播種ロール(１ケ)

2.持　　長

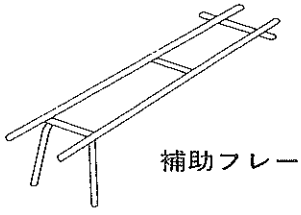
- 本機を使用することにより，均一な土押え，播種，籾押えが１行程でできます。
- 大径播種ロール，回転ブラシ，籾落しバネにより精度よく播種できます。
- 播種ロールは，軟いスポンジでガイドされているため，種籾を傷付けません。

3.各部の名称



4.オプション部品

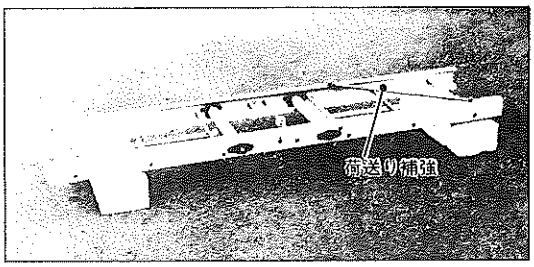
- オプション部品として補助フレームを用意しています。
  人手のないときには補助フレームを取付けることにより余裕のある作業ができます。



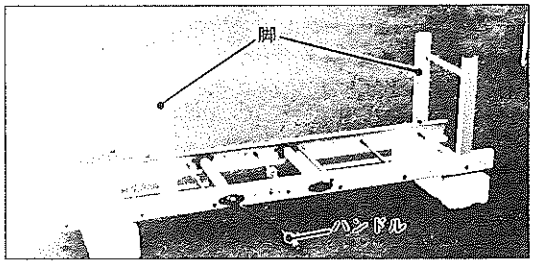
補助フレーム

■ 5.組立方法

(1)フレームを横にして荷造りの補強を外します。
外したネジは脚の取付に使います。

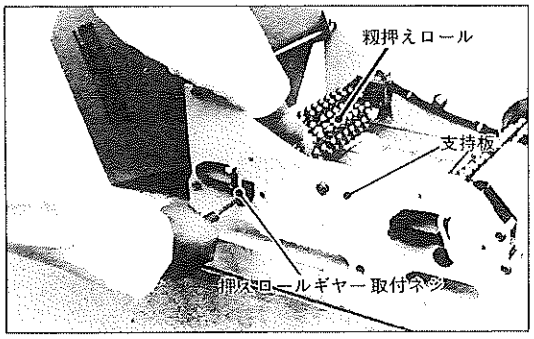


(2)フレームの両端に脚を取付けます。
又，ハンドル軸にハンドルを取付けて下さい。



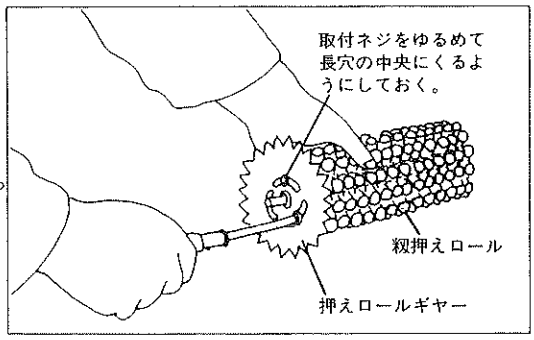
(押えロールの調節)

(3)ホッパー部は，フレームにのせる前に，支持板の穴からプラスドライバーを入れて，押えロールギヤーの取付ネジ3本をゆるめて下さい。

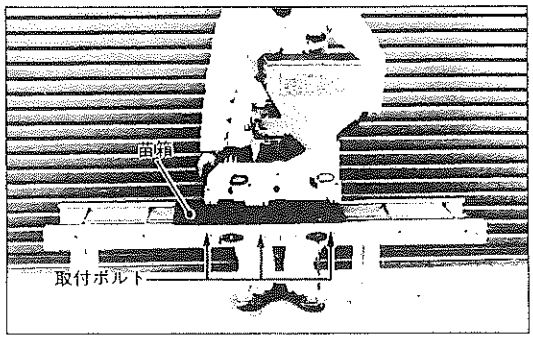


(4)押えロールギヤーは，籾押えロールに対して長穴の範囲を手で廻せる程度にゆるめ，取付ネジが長穴のほぼ中央になるようにしておいて下さい。

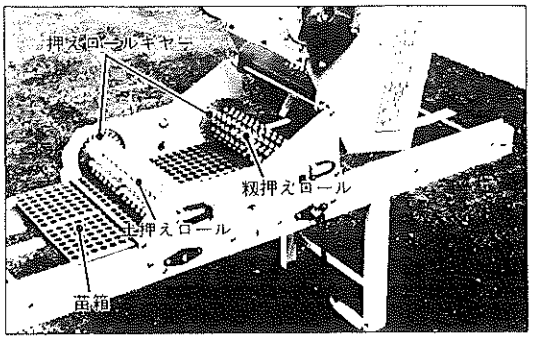
(注)ギヤーがガタガタするほどゆるめてはいけません。



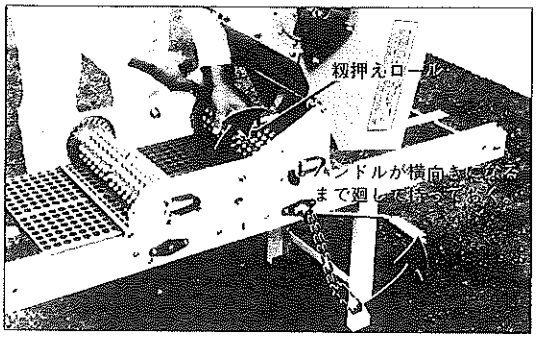
(5)フレーム左右の取付ボルトをゆるめ，図のように苗箱をのせておいてから，ホッパー部をのせます。



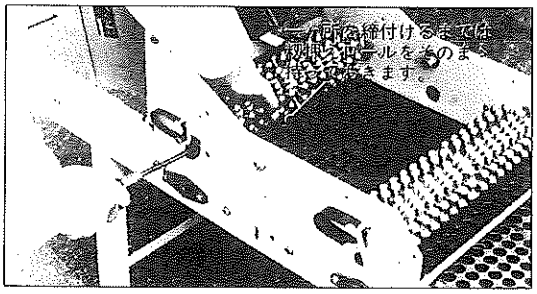
この場合，土押えロール及び籾押えロールを苗箱と噛合せ，又，押えロールギヤーの噛合いも合わせてから，取付ボルトを締付けて下さい。



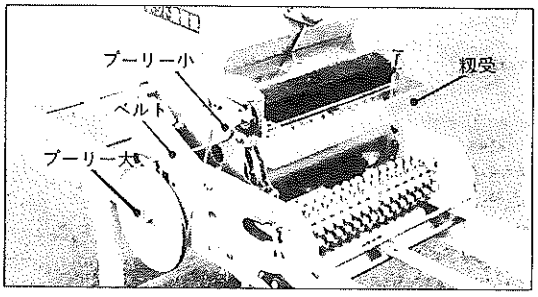
(6)籾押えロールを手で矢印の方向に廻すと，ハンドルが廻されますので，図のようにハンドルがほぼ横向きになった位置で持っておきます。



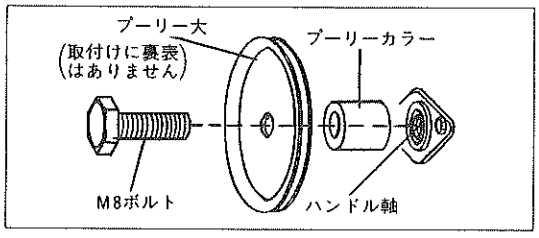
(7)この状態で，ゆるめておいた取付ネジを充分締付けて下さい。
これで押えロールの噛合せの調節が出来たわけですが，噛合せがずれていると苗箱と噛合う際，カチンと音がすることがありますので正しく調節して下さい。



(8)ハンドルの反対側にプーリー大を取付け，プーリー小にベルトをたすき掛けします。又，籾受は回転ブラシの前に取付けて使用します。



● プーリー大は右図の様に取付けます。



■ 6.作業前の準備

(1)注　油

作業前には，回転部及びチェーンにギヤーオイル#90を必ず注油して下さい。

(注)回転ブラシのベルトにオイルが付着しますと，スリップして回転ブラシが廻らないことがあります。その場合には，ベルト及びプーリーの油分をよく拭き取ってから使用して下さい。

(2)必要な資材の準備

必要な資材の使用量は，育苗栽培マニアルに従って準備しますが，特に本機は次の事柄を必ず守って使用して下さい。

①種籾の準備

● 芒や枝梗が多く残っていると，種籾が播種穴に入らないため，正確な播種ができませんので，必ず脱芒機にかけてトーミ選を行って下さい。

● 催芽は，播種の日に合わせてハト胸程度に発芽するように計画的に行って下さい。
長いものでも2㎜以上伸ばさないように注意して下さい。
伸びすぎる心配のある場合には，早目に水温を下げ冷水をかけ流す等して下さい。

●種籾は，手に持って湿気を感じない程度に充分陰干しして下さい。
発芽の揃った種籾は，脱水機にかけてからムシロ等の上に拡げて，陰干しすると早く乾かすことができます。

②土の準備

●砂土，火山灰土，小石のある土は使用しないで下さい。

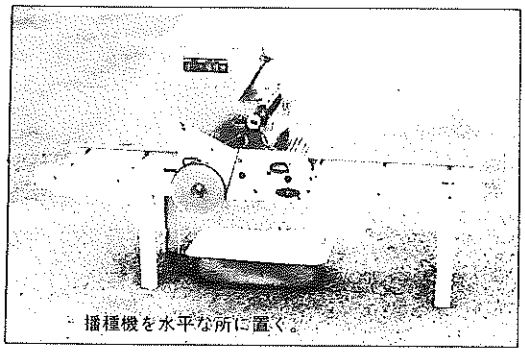
●土は，手で握れば固まり，落せば２～３個に砕ける程度に湿らせた土を使用して下さい。
育苗上，よく湿らせた土ほどよいのですが，あまり湿らせすぎると土がダンゴになり，土入れがしにくくなりますので注意して下さい。

7. 播種作業

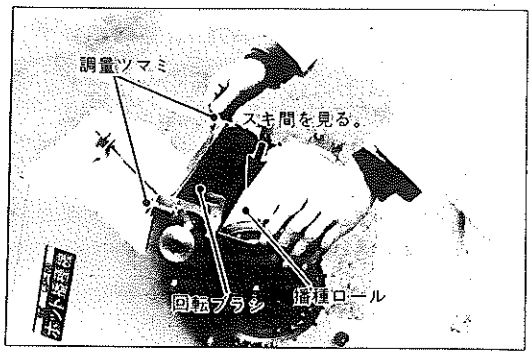
播種作業は次の順序で行います。

(1)機械の設置 → (2)回転ブラシと播種ロールのスキ間を調節する → (3)ホッパーに種籾を入れる → (4)播種量の加減をする → (5)シャッターの調節をする → (6)苗箱に土入れをする → (7)土入れをした苗箱に播種する → (8)覆土をしてでき上がり

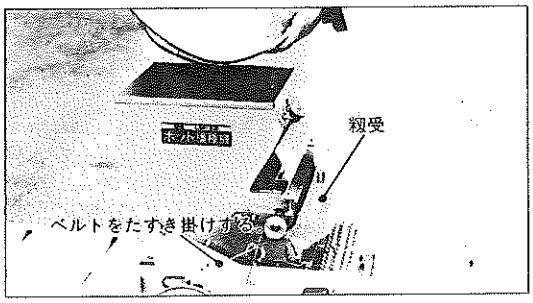
(1)播種機を水平な所に置きます。傾いた所に置くとフレームがねじれて播種ロールが苗箱に噛合わないことがありますので，ねじれないように置いて下さい。又，フレームの下には種籾を受ける容器を準備しておきます。


播種機を水平な所に置く。

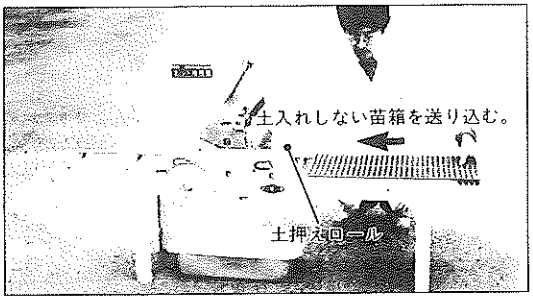
(2)**籾受とベルトを取外し**ホッパー部を起こしてから，回転ブラシの毛先が播種ロールの表面スレスレに当るよう，スキ間を見ながら，ホッパー左右の調量ツマミで調節して下さい。



(3)ホッパーに種籾を入れ，ベルトをたすき掛けして籾受を取付けておきます。

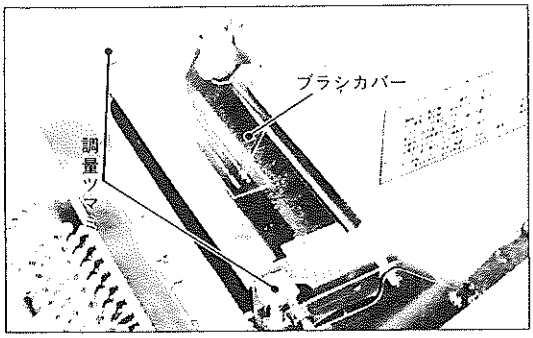


(4)播種量の調節をするために苗箱を土入れしないで播種機にのせ，ハンドルをごくゆっくり廻しながら土押えロールに送り込み，噛合ったら毎分60回転ぐらいの速さでハンドルを廻します。

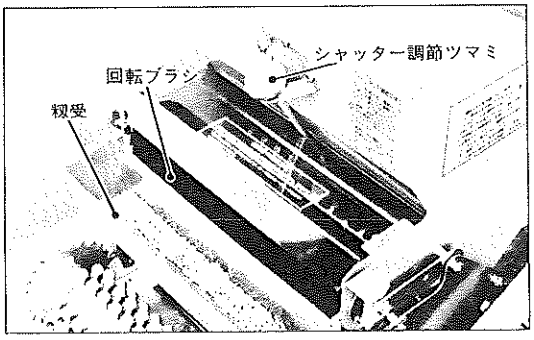


● 数回苗箱を通して，ブラシカバーの上から見ると播種ロール面が種籾で覆われてきます。
播種ロール面が完全に見えなくなると，播種できる状態です。1ポットに必要に応じて（平均2～3粒，又は3～4粒程度）入る様にホッパー左右の調量ツマミを“多い”又は“少い”の方向に適宜廻して加減して下さい。

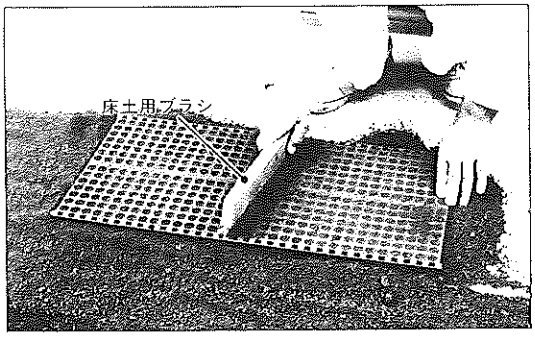
(注)調量ツマミを加減した場合には，2箱目の播種量を確認して下さい。



(5)播種量の調節を続けていると，回転ブラシにより種籾が籾受に掃き出されます。
苗箱を1回通すごとに20粒以上が籾受に掃き出されるようにシャッター調節ツマミを廻して調節して下さい。籾受に掃き出される種籾の量が右と左で違うことがありますが，1ポット当りの播種量には関係ありません。籾受に種籾が一杯になったらホッパーに戻して下さい。

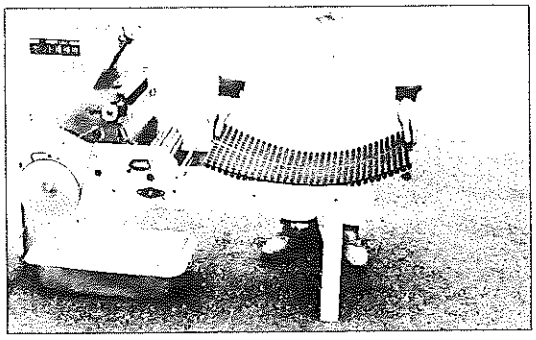


(6)播種量の調節ができたら苗箱にまんべんなく土入れをします。
付属の床土用ブラシで，マス切をした後，ポットの土を2～3㎜掃き出しておいて下さい。
土はむりにすり込まないようにして下さい。

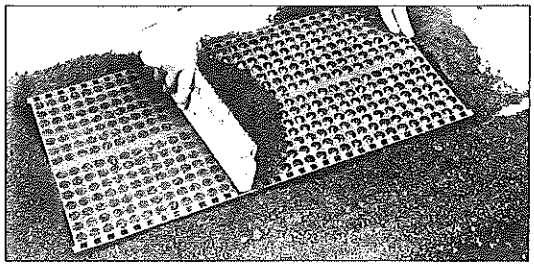


(7)土入れをした苗箱を播種機にのせ，ハンドルを廻して苗箱を送れば，土押え－播種－籾押えが1行程でできます。
ハンドルは一定の速さで廻して下さい。

(注)苗箱送りの途中でハンドルを止めると播種ムラになりますので，必ず1枚の苗箱を完全に送り出す迄途中で休まないで下さい。

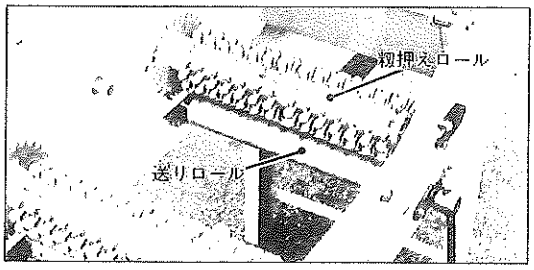


(8)播種した苗箱に覆土をしてきれいにマス切をすればでき上がりです。



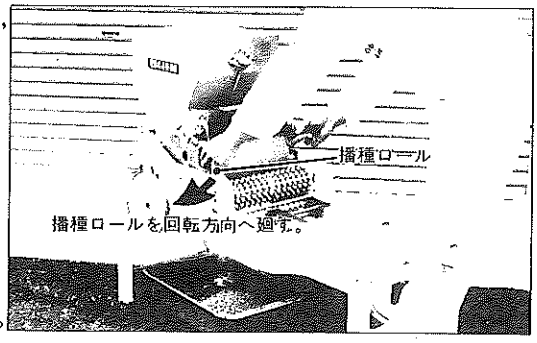
(注)覆土はブラシで掃き出す必要はありません。

(注)播種作業を続けていますと，送りロールに土が付着してくる場合がありますので，ときどき送りロールの掃除をして下さい。



(9)作業が終ったら，ホッパー内に残った種籾を取出し，播種ロールを回転方向へ手で廻して完全に種籾を取出しておいて下さい。

(注)品種をかえて播種する場合には，ホッパー内の種籾を完全に取出すと同時に，フレーム及びホッパー周辺をきれいに掃除をしてから作業して下さい。



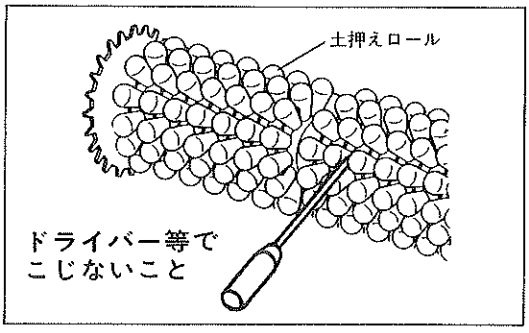
8.取扱上の注意

(1)苗箱が播種ロールに噛合っている場合には，**ハンドルを絶対に逆転させないで下さい。**逆転させる必要のある場合には，**籾受と回転ブラシのベルトを外してから**ホッパーを後へ倒しておいて下さい。

(2)回転ブラシのプーリーにベルトをかけたままホッパー部を持ち上げると，ベルトが伸びますので，**必ずベルトを外してから**ホッパー部を持ち上げて下さい。

(3)播種ロールカバーは取外す必要はありませんが，万一取外した場合には，播種ロール面とカバーの間にスキ間がないように指で軽く押えて取付けて下さい。強く押えつけると播種ロールの回転が重くなることがありますので注意して下さい。

(4)長時間の作業をすると，土押えロールの間に土が詰まる場合がありますが，掃除をする際はドライバー等で土押えロールの突起をこじて破損させないように注意して下さい。



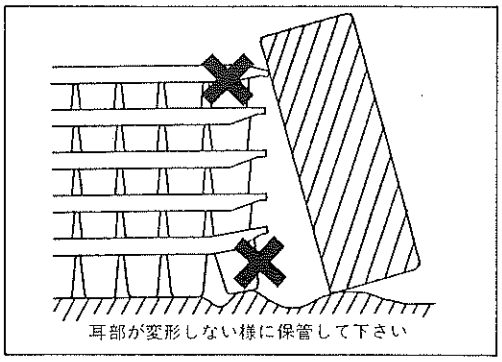
■ 9.保管時の注意

(1)調量ツマミを〝多〟の方へ廻して**回転ブラシが播種ロールに当らないようにしておいて下さい。**

(2)回転ブラシの**ベルト及び籾受は，外して保管して下さい。**

(3)ホッパーの上には重いものをのせないで下さい。

4)苗箱は正しく保管して，特に**耳部の変形がないよう**気をつけて下さい。

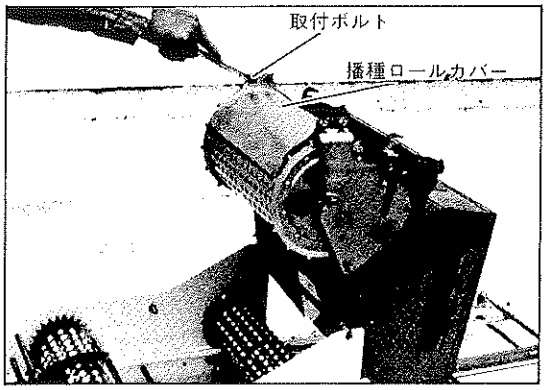


■ 10. 播種ロールの取替要領

- 平均 2 ～ 3 粒程度の播種量を希望する場合は，オレンジ色の〝2 ～ 3 粒まき播種ロール〟を使用します。
- 平均 3 ～ 4 粒程度の播種量を希望する場合は，白色の〝3 ～ 4 粒まき播種ロール〟を使用します。

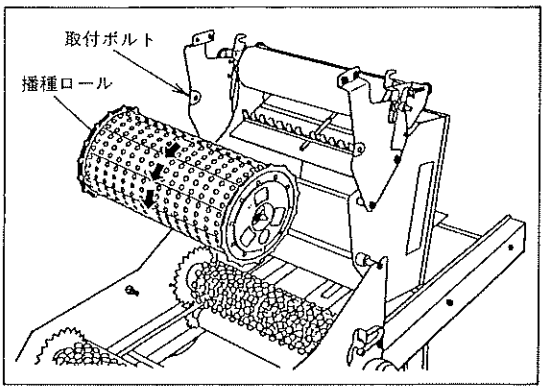
取　替　要　領

(1)取付ボルトを外して，播種ロールカバーを取外します。

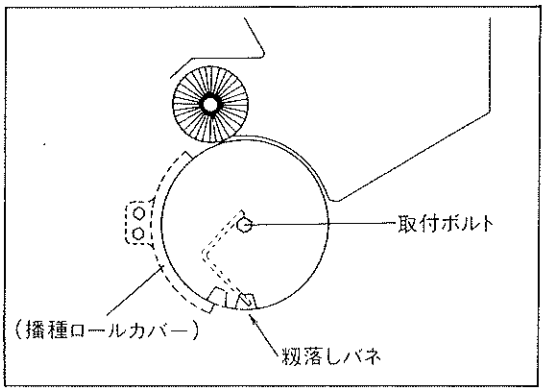


(2)播種ロール左右の取付ボルトを外して，播種ロールを取替 えます。

(注)播種ロール取付の際は向きに注意して，矢印が図の向きになる様にします。

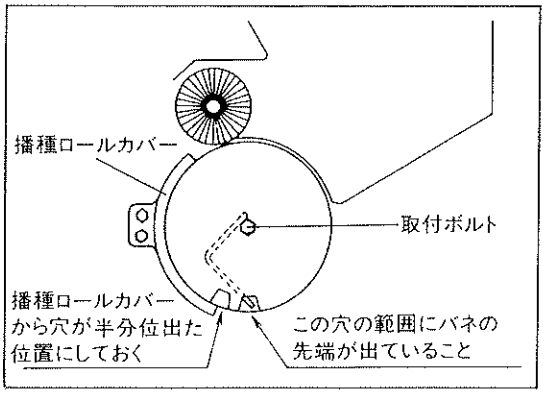


(3)籾落しバネを略図の位置（播種ロールカバーを取付けた時，籾落しバネの先端が見える位置）にしておいて，取付ボルトを仮締めします。



(2)播種ロールカバーを播種ロールに軽く接する程度に密着させて取付けた後，籾落しバネを右図の位置にして取付ボトルを固定して下さい。

(注)最後に播種ロールを手で廻してみて，籾落しバネが略右図の位置でパチン・パチンとはじいていることを確認して下さい。



■ まえがき

このたびは、電動ポット播種機をお買いあげいただきまして、ありがとうございました。

本機は、手軽で播種精度の高い播種機として初めて完成されたものです。

この取扱説明書は電動ポット播種機の正しい使用方法について説明してあります。

本機のすぐれた性能を充分発揮して、安全に作業していただくため、内容をよくお読みいただくとともに末長くご活躍下さい。

なお、品質、性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。

その際には本書の内容および写真、イラストなどの一部が、本播種機と一致しない場合がありますのでご了承下さい。

■ 目　　次

●安全のポイント…… 1

●作業前の準備…… 7

1. 仕　　様…… 8

2. 特　　長…… 8

3. 各部の名称…… 8

4. 組 立 方 法…… 9

5. 作業前の準備…… 12

6. 播 種 作 業…… 12

7. 取扱上の注意…… 15

8. 保管時の注意…… 15

9. 播種ロールの取替要領…… 16

安全のポイント

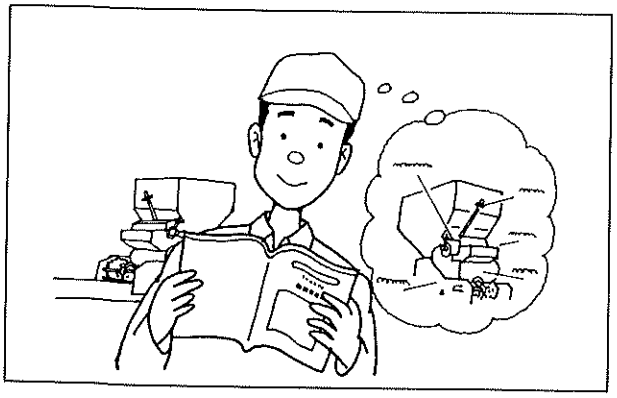
安全な作業をするために

本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事柄を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行って下さい。

■ 作業者の条件

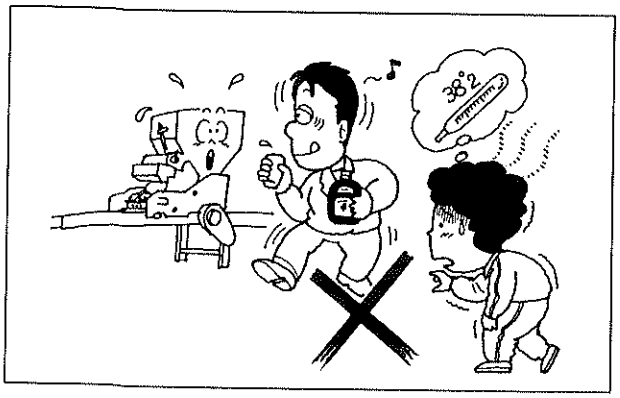
（1）はじめに

作業をする前に、この『取扱説明書』をよく読むことから始めてください。これが安全に快適に作業をするための第一歩です。



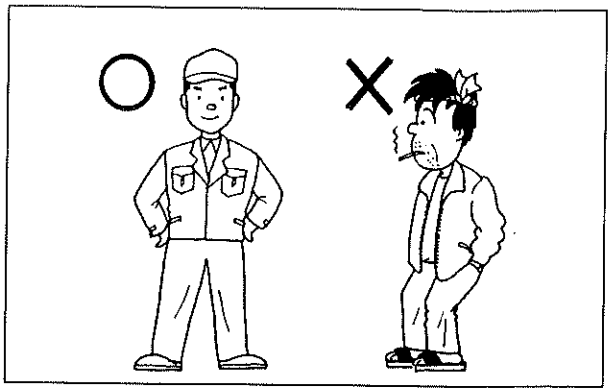
（2）体調について

飲酒時や過労ぎみの時は、作業をしないでください。この様な時作業を行うと、誤操作などで思わぬ事故を引き起こします。作業する時は、必ず心身とも健康な状態で行ってください。



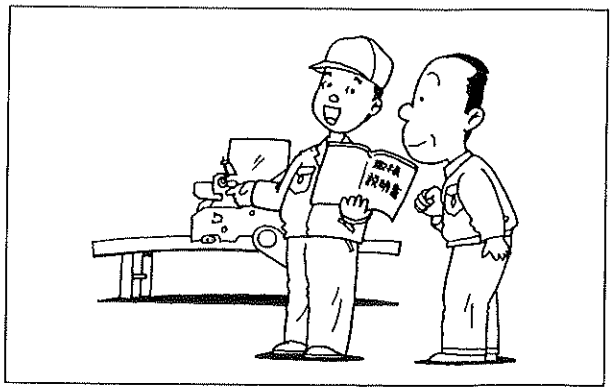
（3）服装について

作業する時は、作業に合わせた服装をしてください。服装が悪いと、衣服が回転部等に巻き込まれたりして大変危険です。



（4）人に機械を貸す時は

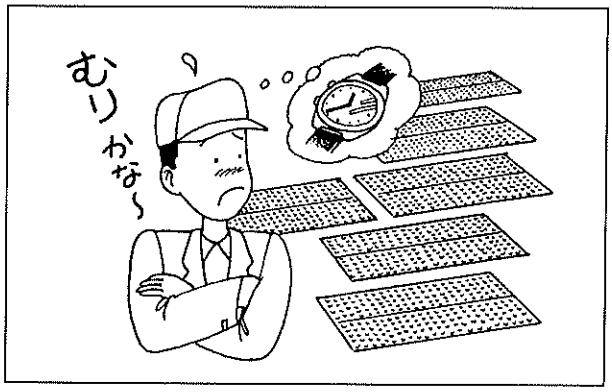
機械を貸す時は、取扱いの方法をよく説明し、使用前に『取扱説明書』を熟読する様に指導してください。借りた人が、機械の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。



■ 作業を開始する前に

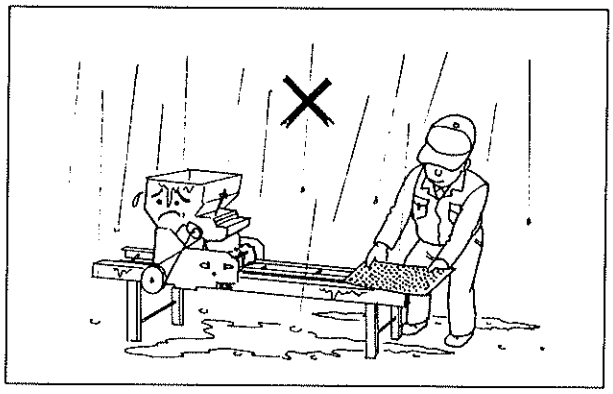
（1）無理のない作業計画で

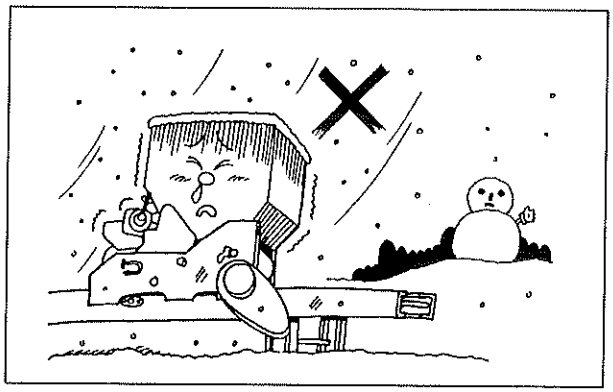
無理・無駄のないゆとりある作業計画を立てましょう。無理な作業計画は、あせりなどから思わぬ事故を引き起こすことがあります。



（2）作業環境について

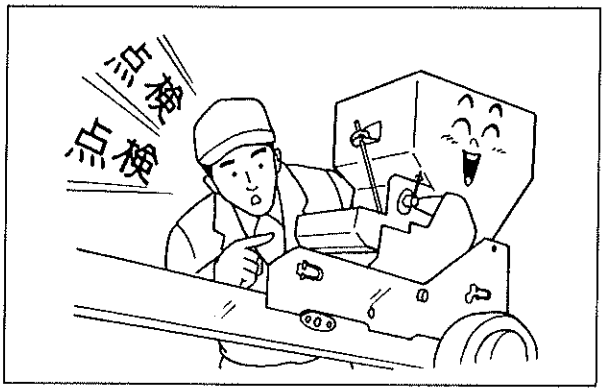
降雨時の屋外作業や、屋内でも水気や湿気の多い場所での作業は絶対にしないでください。守らない場合は感電の恐れがあります。
また、あまり低温時には作業を行わないでください。苗箱の損傷や、思わぬ事故の原因になります。





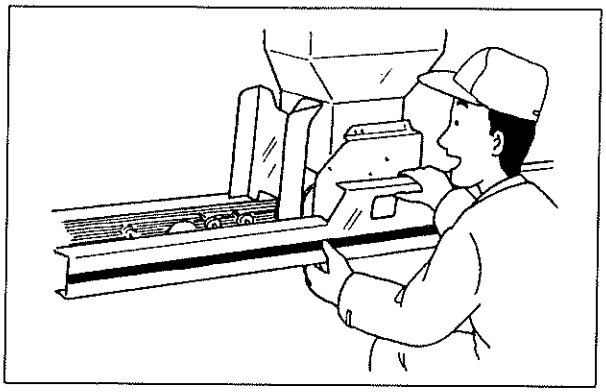
（3）日常点検について

作業前に、必要な点検・注油は必ず行ってください。点検・注油を怠ると、作業中の思わぬ事故につながる場合があります。



（4）安全カバー類の装着確認

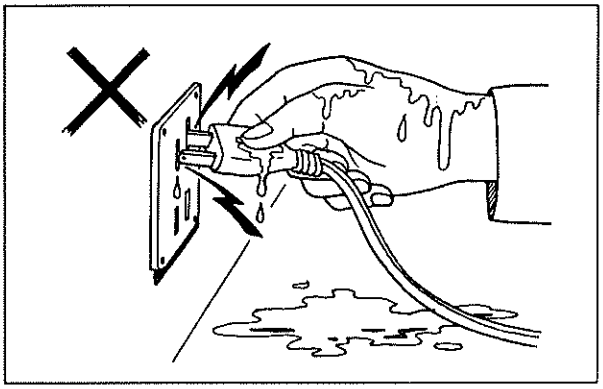
機械を運転する前に、安全カバー類が外されたままになっていないか確認しましょう。外れたまま作業を行うと、危険な部分が露出して大変危険です。



■ 電源プラグ・コードについて

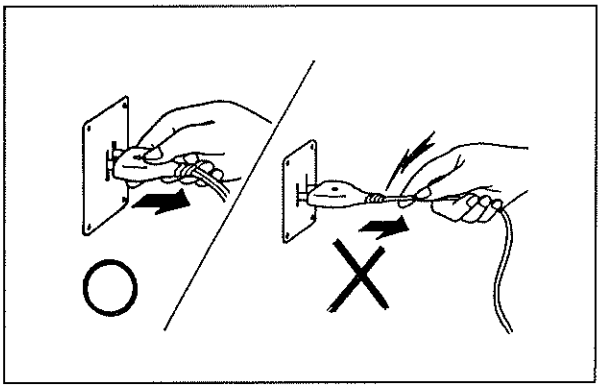
（1）ぬれた手では触らない

ぬれた手で電源プラグ・スイッチ等には、絶対に触れないでください。感電の恐れがあり大変危険です。



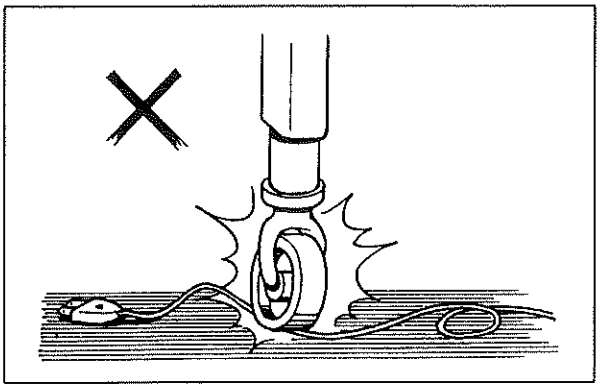
（2）電源プラグを持って抜く

電源プラグを抜く時は、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜いてください。
守らない場合は、感電や漏電火災の原因になります。



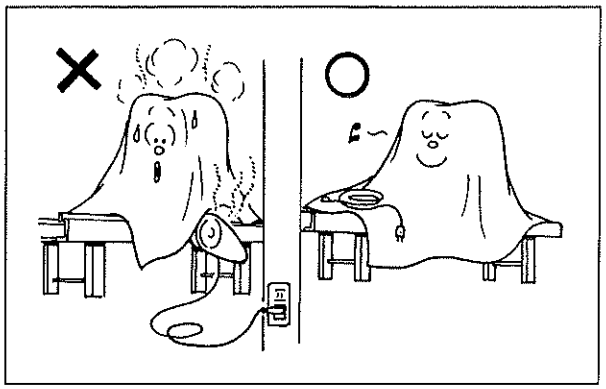
（3）電源コードは大切に

電源コードの上には絶対に重い物をのせないでください。守らない場合は、感電や漏電火災の原因になります。



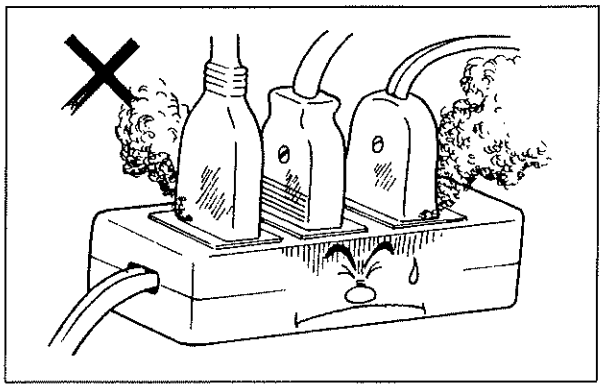
（4）使用時以外はプラグを抜いて

使用時以外は、電源プラグをコンセントから抜いてください。守らない場合は、絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります。



（5）タコ足配線厳禁

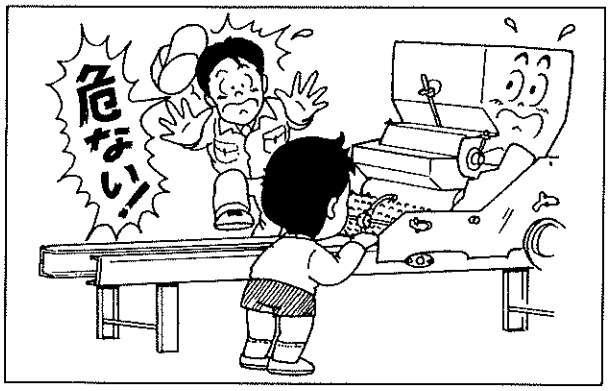
交流100Vのコンセントを単独で使ってください。
他の器具と併用すると、分岐コンセント部が異常発熱して発火することがあります。



■ 作業中は

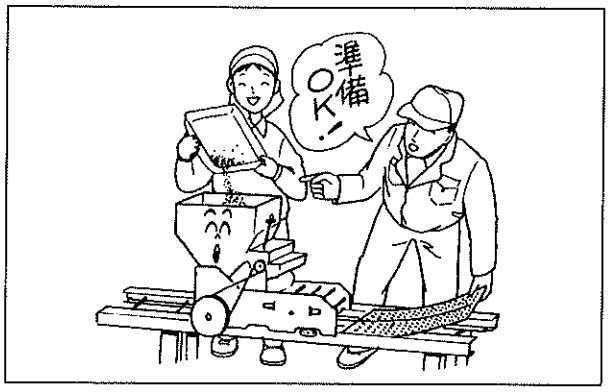
（1）作業中は、回りの人に注意（特に子供）

作業中は、作業者以外の人は機械に近づかないでください。機械自体や、作業による飛散物等で、傷害事故を引き起こす恐れがあり危険です。



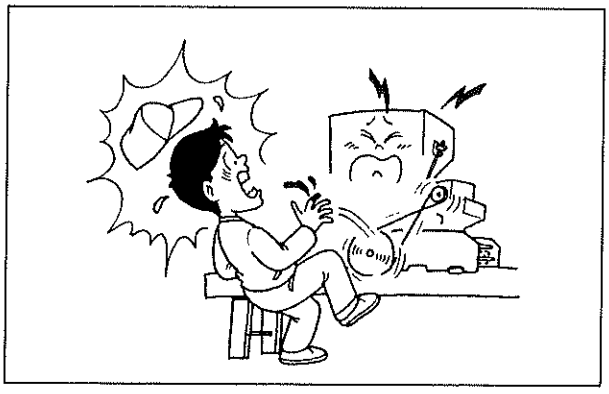
（2）作業開始時は、声かけあって

作業を開始する時は、周囲の安全を確認し、特に補助者と共に作業する時は、声をかけ合って行ってください。怠ると傷害事故の原因になり大変危険です。



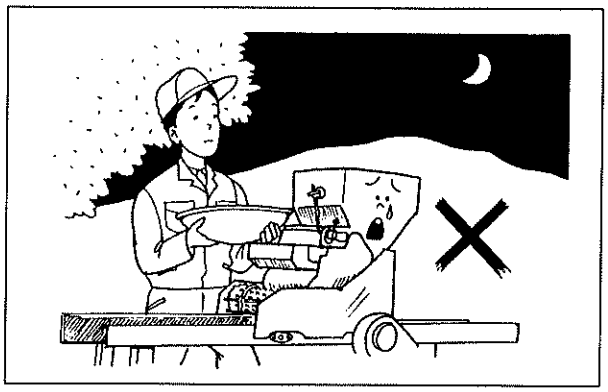
（3）回転部・過熱部には手を触れない

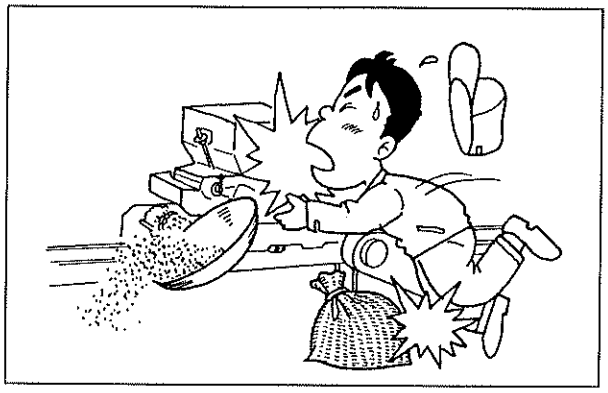
作業中は、チェーン・スプロケット等の回転部分や、モーター等の過熱部には手を触れないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。



（4）作業は、明るく広い場所で

夜間の作業や、暗い屋内での作業はしないでください。また、作業は広い平らな場所で行い、機械の周りは整理整頓しておいてください。怠ると思わぬ事故の恐れがあります。

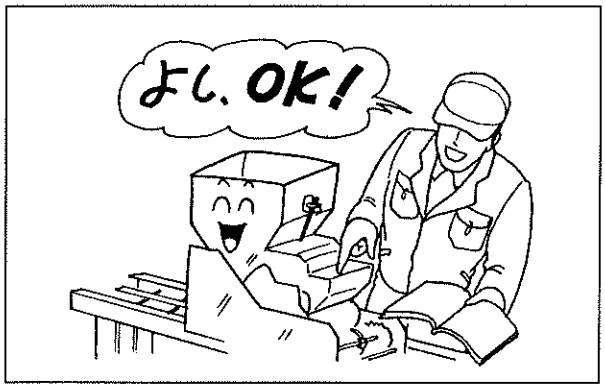




■ 点検・整備時は

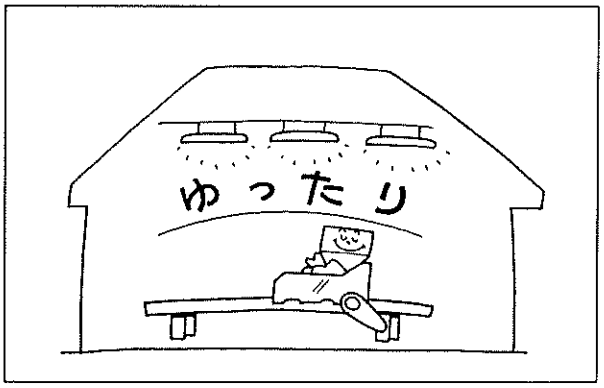
（1）定期点検について

取扱説明書に従って定期点検を実施しましょう。
これは、機械を長持ちさせると共に、安全で効率的な作業が行える第一歩です。



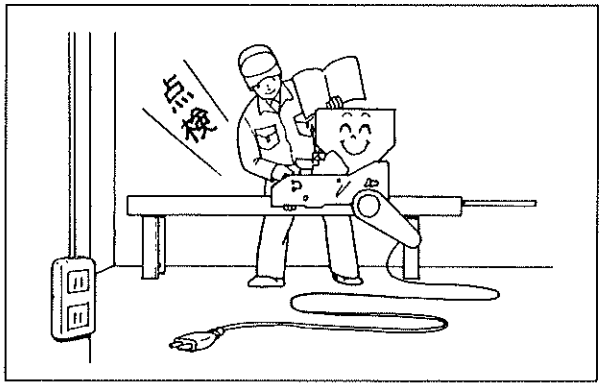
（2）点検・整備は、明るく広い所で

整備・点検は明るく広い所で行ってください。
暗く狭い所で行っていると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



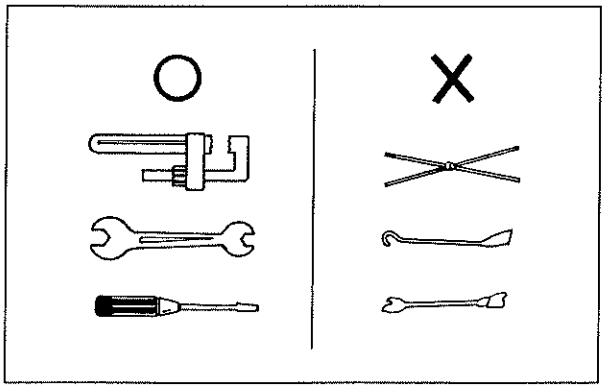
（3）点検・整備は、電源プラグを抜いて

点検・整備を行う場合は、必ず電源プラグを抜いてください。守らない場合は、回転部などに手や衣服が巻き込まれてケガや感電の原因になります。



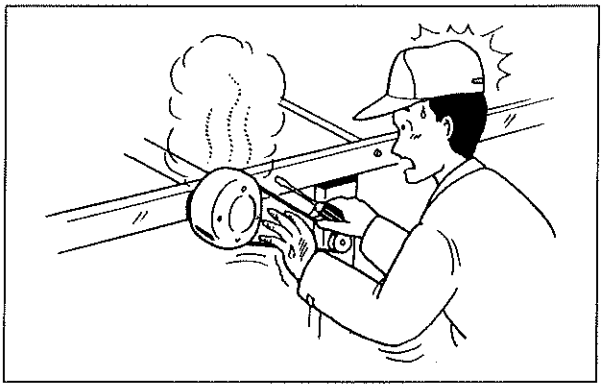
（4）点検・整備は、適正な工具で

点検・整備を行う時は、適正な工具を正しく使用してください。間に合わせの工具で行うと、整備中の傷害事故や整備不良による思わぬ事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。



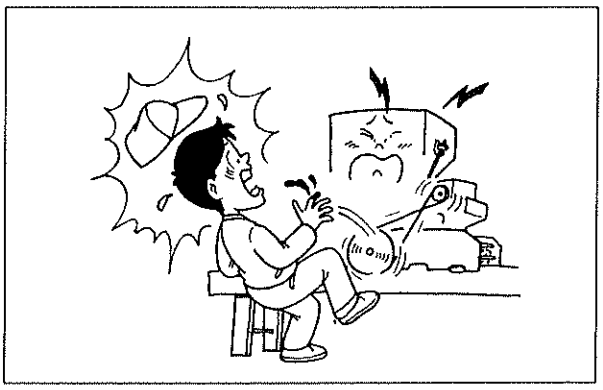
（5）過熱部分は冷めてから

電源プラグを抜いてもすぐには、点検・整備をしないでください。モーター等の過熱部分が完全に冷めてから行ってください。怠ると火傷などの原因になり危険です。



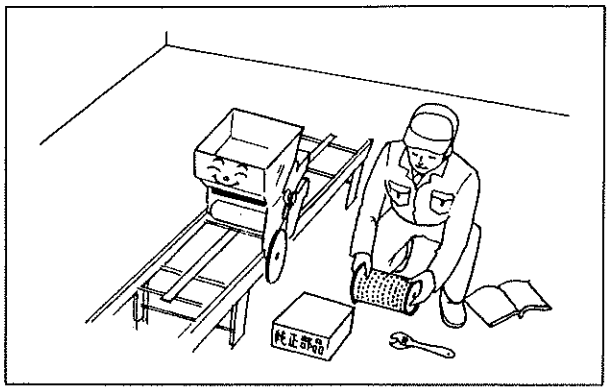
（6）回転部分には注意して

整備・点検を行う場合は、チェーン・スプロケット等の回転部分に、手や指を挟まれない様に、特に注意してください。怠ると傷害事故の原因になり危険です。



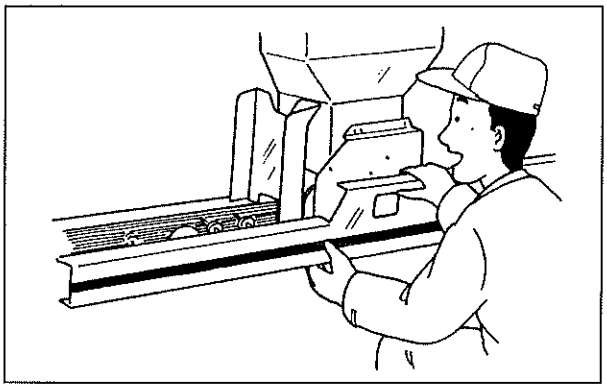
（7）機械の改造は厳禁

指定以外のアタッチメントの取り付けや改造は、絶対にしないでください。機械の故障の原因になるばかりでなく、思わぬ事故の原因になり大変危険です。



（8）カバー類は元通りに

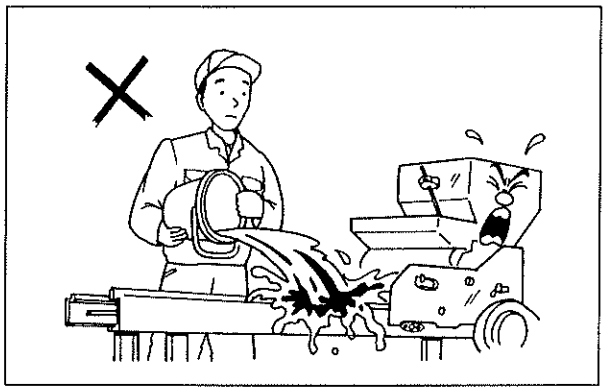
点検・整備で取り外した安全カバー類は、必ず元の通りに取り付けてください。外したままで使用しますと、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となり大変危険です。



■ 格納・保管時は

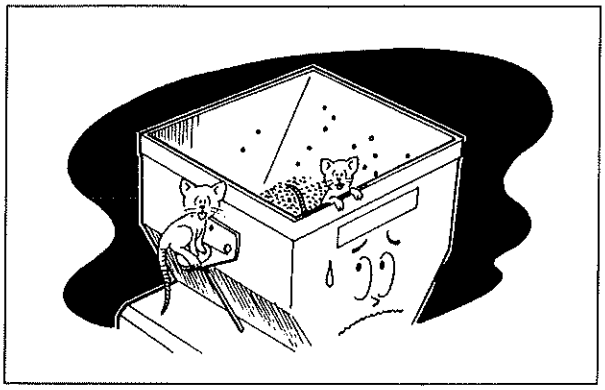
（1）水洗い厳禁

本機には、絶対に水をかけないでください。
感電や漏電火災の原因となり大変危険です。



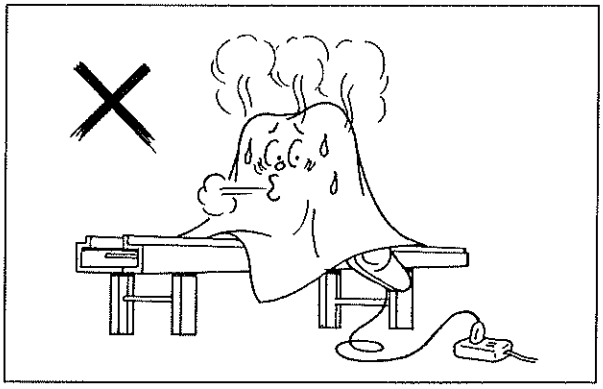
（2）種籾は、きれいに掃除して

長期格納する場合は、播種ホッパーや播種ロール内の種籾を完全に抜き取っておいてください。
怠ると、ネズミ等による食害で、機械の故障の原因になるばかりでなく、漏電火災の原因になり大変危険です。



（3）シートカバーは機械が冷えてから

作業が終了してシートカバー等を機械に掛ける時は、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。
熱いうちにカバー類を掛けると、火災の原因となり大変危険です。



作業前の準備

必要資材の準備

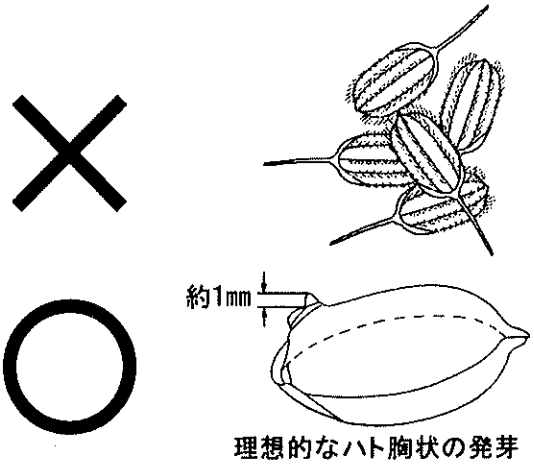
必要な資材の種類・必要量等は、育苗栽培マニュアルに従って準備してください。
その際、次の事柄には特に注意してください。

1．種籾の準備

●芒や枝梗が多く残っていると、種籾が播種穴に入らないため、正確な播種ができません。必ず脱芒機にかけてトーミ選を行ってください。

●催芽は、播種作業を行う日に合わせてハト胸程度に発芽する様、計画的に行ってください。

●種籾は、手に持って湿気を感じない程度に、十分陰干してください。



理想的なハト胸状の発芽

重要

種籾は、育苗栽培マニュアルに従って、脱芒・塩水選・消毒・催芽等を必ず行ってください。怠ると、発芽不良の原因となります。

2．土の準備

●砂質土・火山灰土等を床土として使用しますと、田植えの際にポット（根鉢）が崩れやすく、植付不良の原因となりますので、絶対に使用しないでください。

●手で握れば固まり、落せば２～３個に砕ける程度に湿らせた土を使用してください。

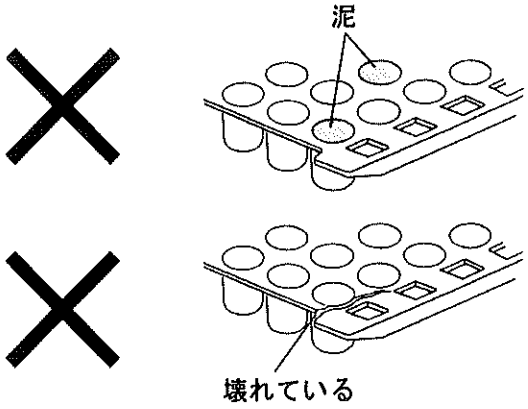
重要

使用する土の選択を誤ると、即育苗の失敗につながります。土の選択で失敗しない為には、純正培土のご使用をお勧めします。

3．苗箱の準備

●泥・ゴミクズの多く残っている苗箱は、播種作業時のトラブルの原因となりますので、必ず前もってよく洗っておいてください。

●破損した苗箱を使用しますと、播種作業時及び植付時において、トラブルの原因となるばかりでなく、機械が破損する恐れがありますので、絶対に使用しないでください。



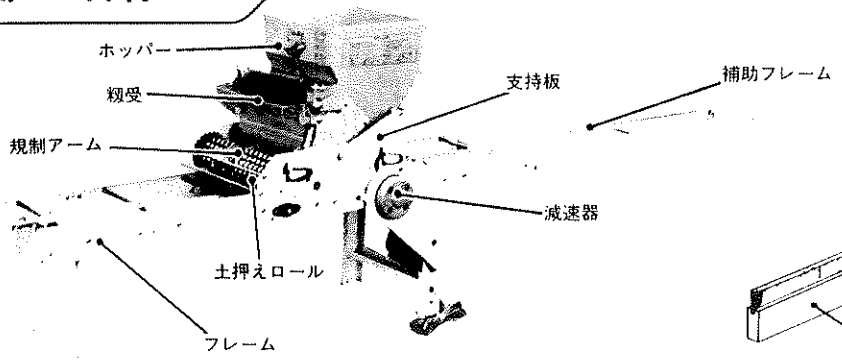
■ 1. 仕　　様

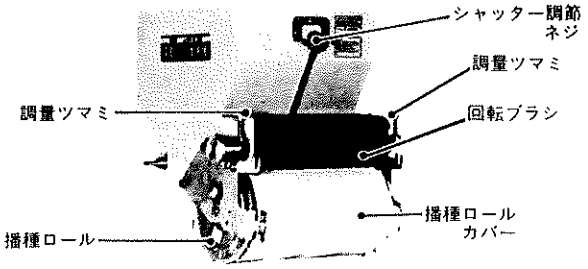
名　　称	電動ポット播種機
型　　式	ＬＳＰＥ－1
平均播種量(1ポット当り)	3～4
電　　圧 (V)	単相 100
出　　力 (W)	300
定格時間 (分)	30
全長×全巾×全高 (mm)	2810×465×810(補助フレームを含む)
重　　量 (kg)	38
能　　率 (枚/時)	200
ホッパー容量 (ℓ)	19
付　属　品	補助フレーム(1式) 床土用ブラシ(1ヶ)

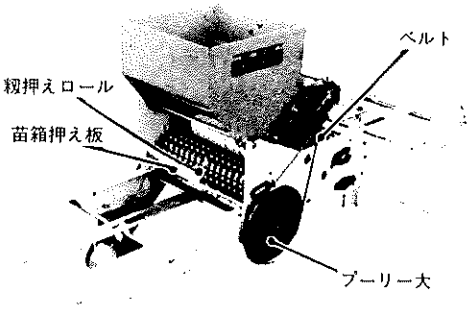
■ 2. 特　　長

- 本機を使用することにより，均一な土押え，播種，籾押えが1行程で出来ます。
- 大径播種ロール，回転ブラシ，籾落しバネにより精度よく播種出来ます。
- 播種ロールは，軟いスポンジでガイドされているため，種籾を傷付けません。
- 自動スイッチの働きで操作が簡単です。

■ 3. 各部の名称

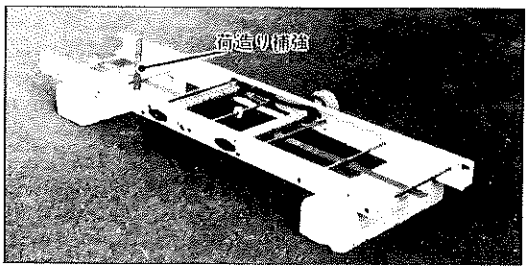




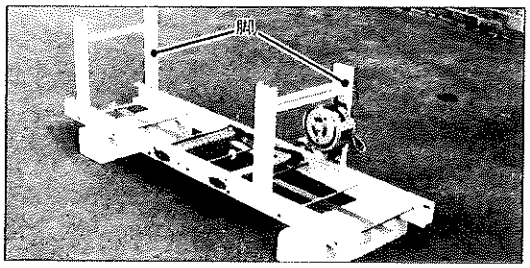


■ 4. 組 立 方 法

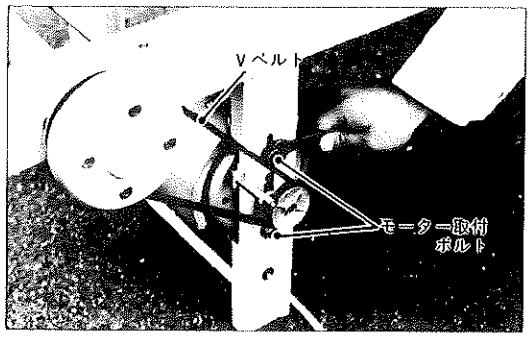
(1)フレームを横にして荷造りの補強を外します。
外したネジは脚の取付けに使います。



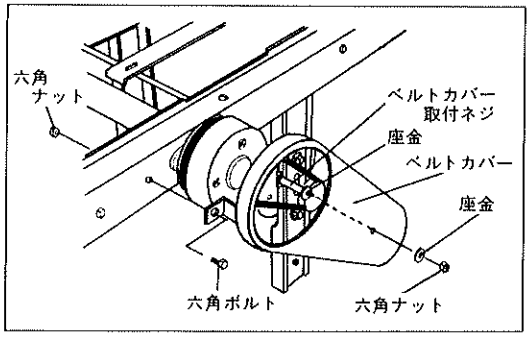
(2)フレームの両端に脚を取付けます。



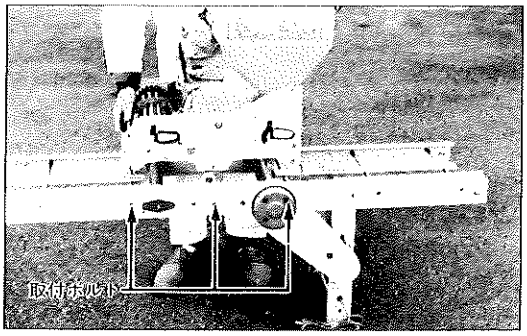
(3)脚が取付くとフレームを起こしてから，モーターの取付ベルト２本をゆるめ，Ｖベルトを掛けます。
モーターの自重でＶベルトを張り，取付ボルトは確実に締めて下さい。



(4)ベルトカバーは，図のように減速機の外周に当らないように取付けて下さい。

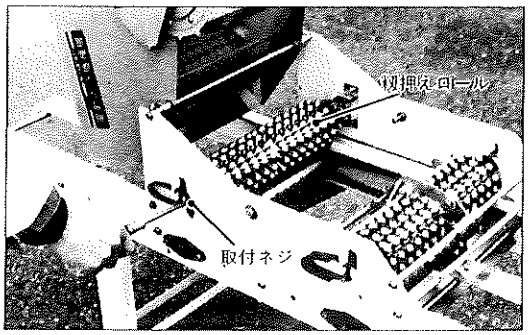


(5)フレーム左右の取付ボルトをゆるめて，ホッパー部を図の位置に取付けます。



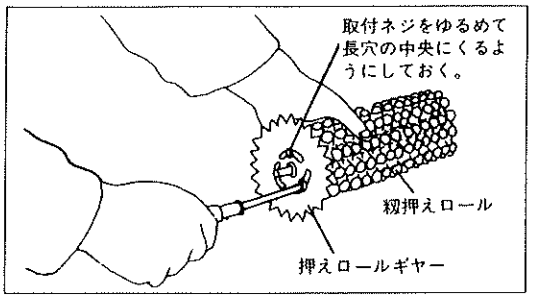
(押えロールの調節)

(6)支持板の穴からプラスドライバーを入れて，押えロールギヤーの取付ネジ３本をゆるめます。

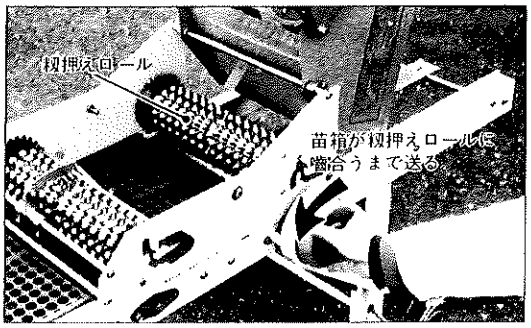


(7)押えロールギヤーは，籾押えロールに対して長穴の範囲を手で廻せる程度にゆるめ，取付ネジが長穴のほぼ中央になるようにしておいて下さい。

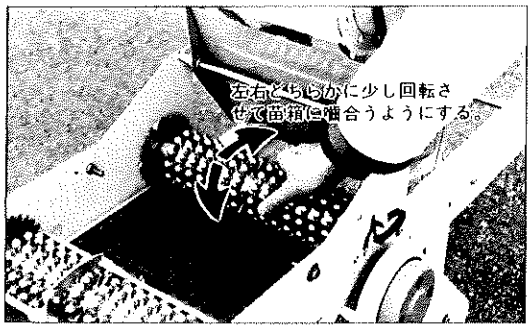
（注）　ギヤーがガタガタするほどゆるめてはいけません。



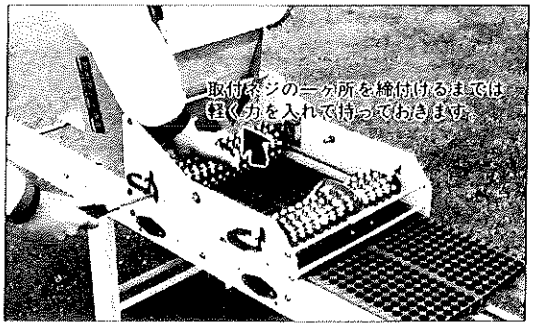
(8)減速機を手で廻して苗箱を送り，籾押えロールと苗箱を噛合せます。



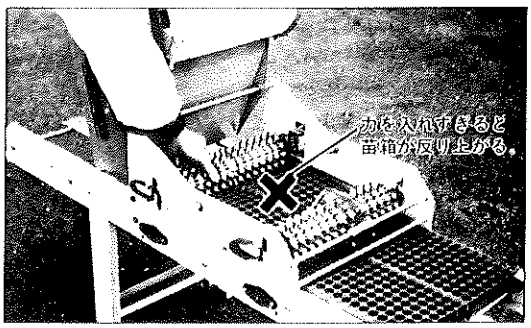
(9)うまく噛合わない場合には，籾押えロールを左右どちらかに少し回転させて，苗箱に噛合うようにします。



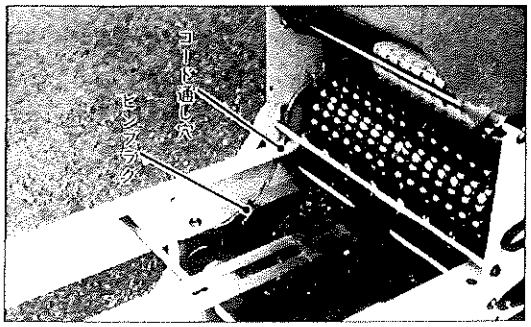
(10)籾押えロールは苗箱との噛合いの遊びを取るため，矢印の回転方向に軽く力を入れて持っておき，取付ネジを充分締付けて下さい。
これで押えロールの噛合せの調節が出来たわけですが，噛合せがずれていると苗箱と噛合う際，カチンと音がすることがありますので正しく調節して下さい。



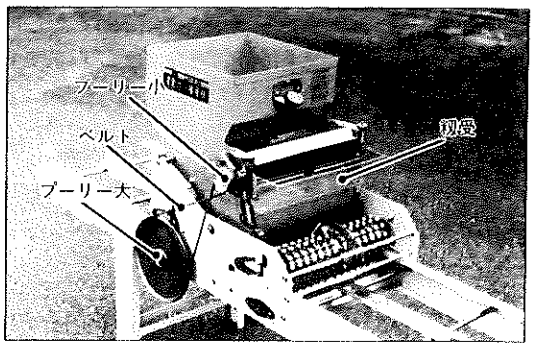
（注）　籾押えロールに強く力を入れすぎると，右図のように苗箱が反り上がり，籾押えロールが正しい歯合いの位置にならないので注意して下さい。



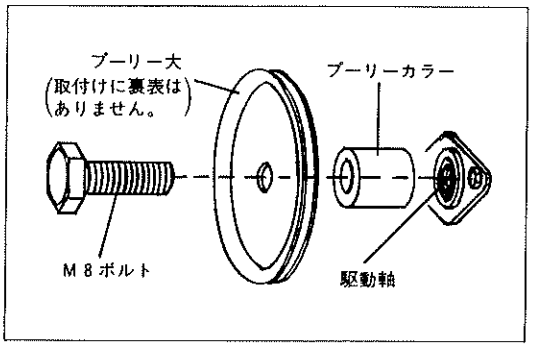
(11)減速機を手で廻し苗箱を送り出してからホッパー側のスイッチのコードをフレームのコード通し穴に通し，電源及びコンデンサーからのコードとピンプラグで接続します。
ピンプラグは，どちらに接続してもかまいません。



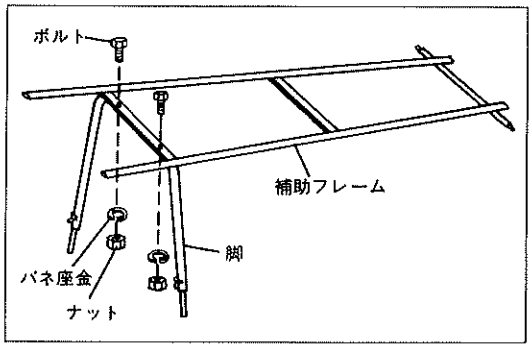
(12)減速機の反対側にプーリー大を取付け，プーリー小にベルトをたすき掛けします。
又，籾受は回転ブラシの前に取付けて使用します。



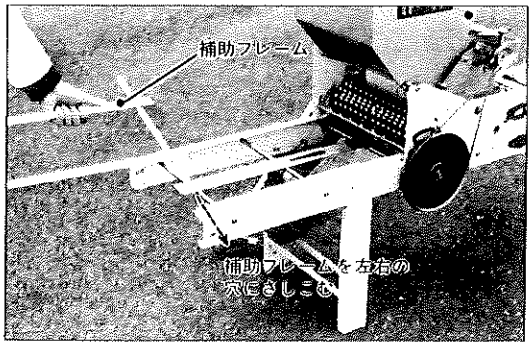
● プーリー大は右図の様に取付けます。



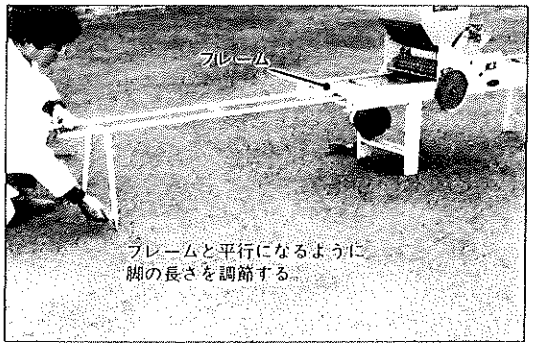
(13)図の様に補助フレームに脚を取付けます。



(14)補助フレームをフレームの長穴に差し込んでセットします。



(15)設置場所に合せて蝶ボルトをゆるめて，脚の高さを加減し，フレームと平行になるようにして使用して下さい。



■ 5. 作業前の準備

(1)注　油

作業前には回転部及びチェーンにギヤーオイル＃90を必ず注油して下さい。
（減速機の軸受部分には注油は不要です。）

（注）　回転ブラシのベルトにオイルが付着しますと，スリップして回転ブラシが廻らないことがあります。その場合には，ベルト及びプーリーの油分をよく拭き取ってから使用して下さい。

(2)必要な資材の準備

必要な資材の使用量は，育苗栽培マニアルに従って準備しますが，特に本機は次の事柄を必ず守って使用して下さい。

①種籾の準備

- 芒や枝梗が多く残っていると種籾が播種穴に入らないため，正確な播種ができない場合がありますので，必ず脱芒機にかけてトーミ選を行って下さい。

- 催芽は，播種の日に合せてハト胸程度に発芽するように計画的に行って下さい。
長いものでも2㎜以上伸ばさないよう注意して下さい。伸びすぎる心配のある場合には早目に水温を下げ，冷水をかけ流す等して下さい。

- 種籾は手に持って湿気を感じない程度に充分陰干しして下さい。発芽の揃った種籾は，脱水機にかけてから，ムシロ等の上に拡げて陰干しすると早く乾かすことができます。

②土の準備

- 砂土，火山灰土，小石のある土は使用しないで下さい。

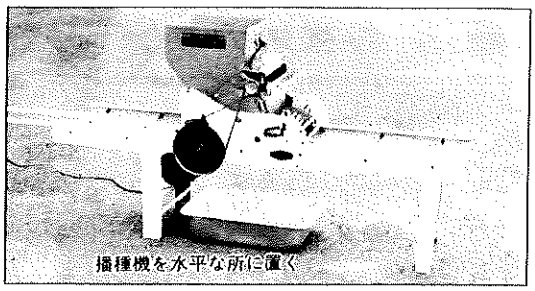
- 土は手で握れば固まり，落せば2～3個に砕ける程度に湿らせた土を使用して下さい。
育苗上，よく湿らせた土ほどよいのですが，あまり湿らせすぎると土がダンゴになり，土入れがしにくくなりますので注意して下さい。

■ 6. 播 種 作 業

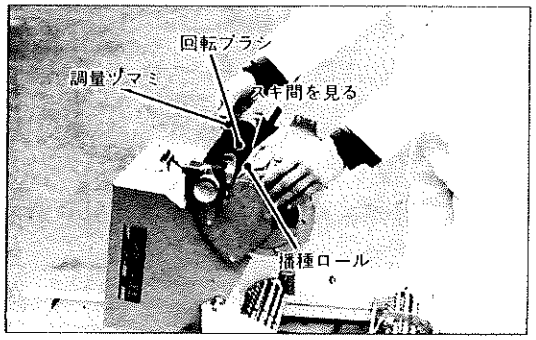
播種作業は次の順序で行います。

(1)機械の設置 ➡ (2)回転ブラシと播種ロールのスキ間を調節する ➡ (3)ホッパーに種籾を入れる ➡ (4)播種量の加減をする ➡ (5)シャッターの調節をする ➡ (6)苗箱に土入れをする ➡ (7)土入れをした苗箱に播種する ➡ (8)覆土をしてでき上がり

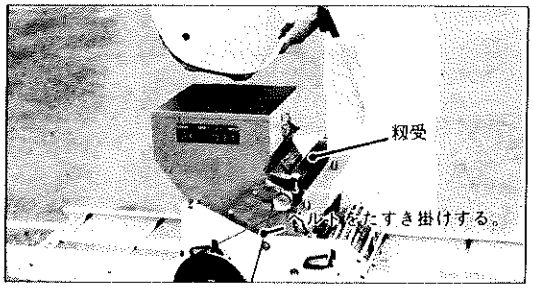
(1)播種機を水平な所に置きます。傾いた所に置くと，フレームがねじれて播種ロールが苗箱に嚙合わないことがありますので，ねじれないように置いて下さい。又，電源コードは 100V単相に接続し，フレームの下には種籾を受ける容器を準備しておきます。



(2)**籾受とベルトを取外し**ホッパー部を起こしてから，回転ブラシの毛先が播種ロールの表面スレスレに当るよう，スキ間を見ながらホッパー左右の調量ツマミで調節して下さい。

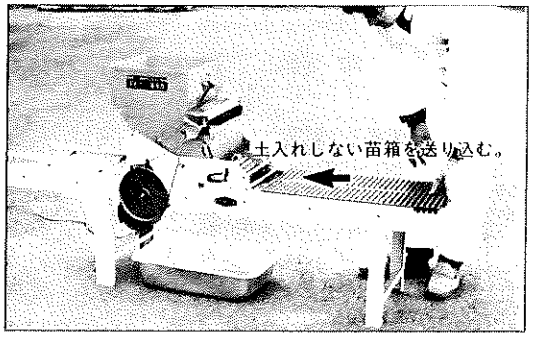


(3)ホッパーに種籾を入れ，ベルトをたすき掛けして籾受を取付けておきます。



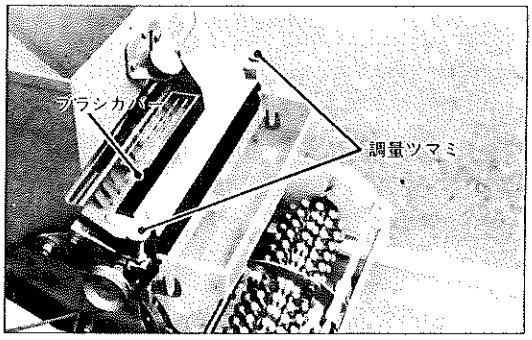
(4)播種量の調節をするために，苗箱を土入れしないで播種機にのせて，土押えロールに押し込むと，自動スイッチが入り，苗箱が送られます。

(注)　機械が完全に停止してから次の苗箱を送り込んで下さい。

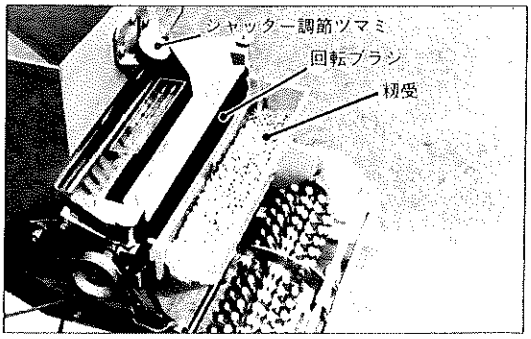


数回苗箱を通してから，ブラシカバーの上から見ると，播種ロール面が種籾で覆われてきます。播種ロール面が完全に見えなくなると播種できる状態です。1ポットに必要に応じて（平均2～3粒，又は3～4粒程度）入る様にホッパー左右の調量ツマミを〝多い〟又は〝少い〟の方向に適宜廻して加減して下さい。

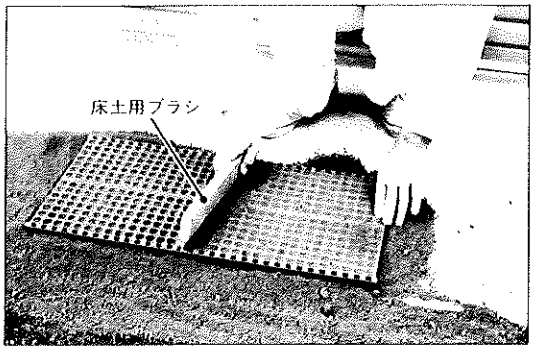
(注)　調量ツマミを加減した場合は2箱目の播種量を確認して下さい。



(5)播種量の調節を続けていると回転ブラシにより種籾が籾受に掃き出されます。
苗箱を1回通すごとに20粒以上が籾受に掃き出されるようにシャッター調節ツマミを廻して調節して下さい。籾受に掃き出される種籾の量が右と左で違うことがありますが、1ポット当りの播種量には関係ありません。籾受に種籾が一杯になったらホッパーに戻して下さい。

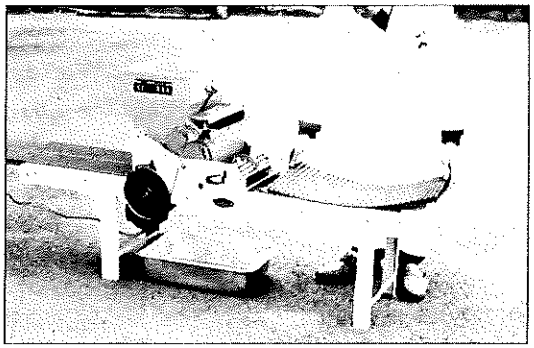


(6)播種量の調節ができたら苗箱にまんべんなく土入れをします。
付属の床土用ブラシでマス切をした後，ポットの土を２～３㎜掃き出しておきます。
土はむりにすり込まないようにして下さい。



(7)土入れをした苗箱を播種機にのせ，送り込めば苗箱は自動的に送られ，土押え－播種－籾押えが１行程でできます。
補助フレームに３枚のるまで続けて作業できます。

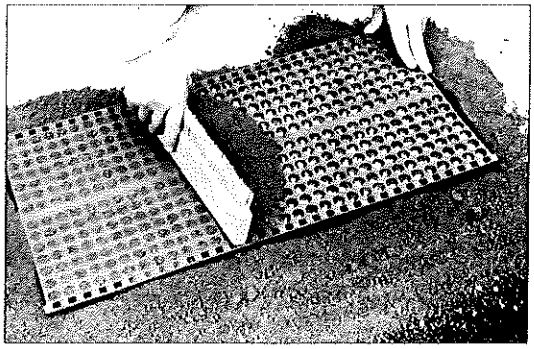
（注）　播種作業中，万一床土に小石等が混入していた場合籾押えロールが持ち上がり，カチンと音がする場合がありますが，続けて作業してさしつかえありません。



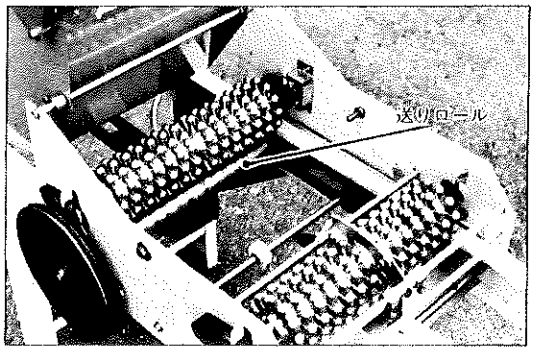
（注）　苗箱を長時間連続で通した場合，モーターの過熱保護装置が働いて，モーターが停止する場合がありますが故障ではありませんので，モーターの温度が十分に下がってからご使用下さい。

(8)播種した苗箱に覆土をして，きれいにマス切をすればでき上がりです。

（注）　覆土はブラシで掃き出さないで下さい。

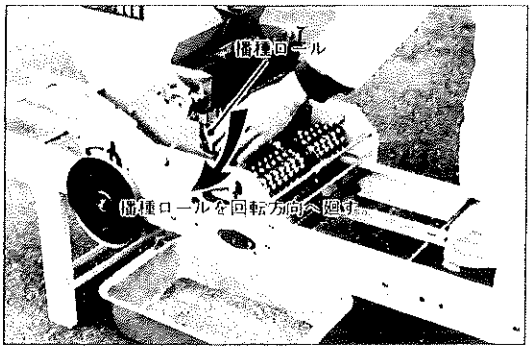


（注）　播種作業を続けていますと，送りロールに土が付着してくる場合がありますので，ときどき送りロールの掃除をして下さい。



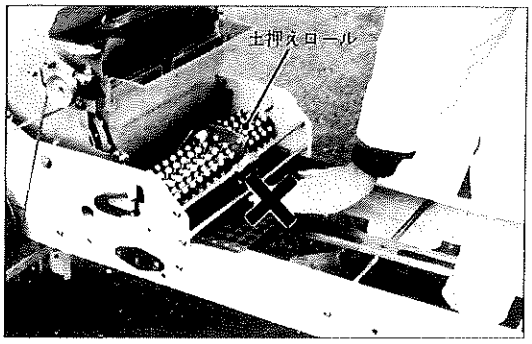
(9)作業が終ったら，ホッパー内に残った種籾を取出し，播種ロールを回転方向へ手で廻して完全に種籾を取出しておいて下さい。

（注）　品種をかえて播種する場合には，ホッパー内の種籾を完全に取出すと同時に，フレーム及びホッパー周辺をきれいに掃除をしてから作業して下さい。

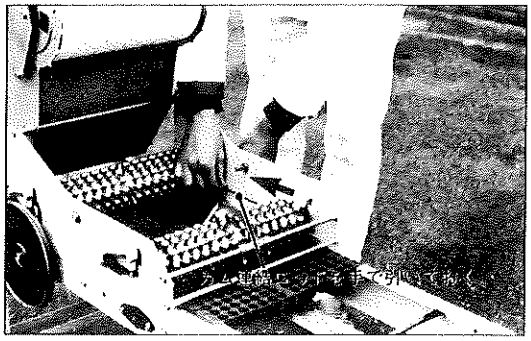


■ 7. 取扱上の注意

(1)作業中は危険ですので，土押えロールには絶対に手を入れないで下さい。



(2)機械を逆転して苗箱を反対方向へ送らないで下さい。
逆転させる必要のある場合には，**必ず電源コードを抜き，籾受と回転ブラシのベルトを外してから**ホッパーを後へ倒して，カム連結ロッドを矢印の方向へ引いておいてから，減速機を手で廻して下さい。

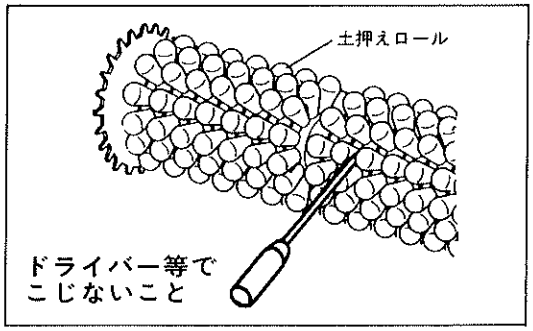


(3)作業中何等かの故障で機械が停止した場合には，必ず**電源コードを抜いてから点検して下さい。**

(4)回転ブラシのプーリーにベルトをかけたままホッパー部を持ち上げると，ベルトが伸びますので，**必ずベルトを外してから**ホッパー部を持ち上げて下さい。

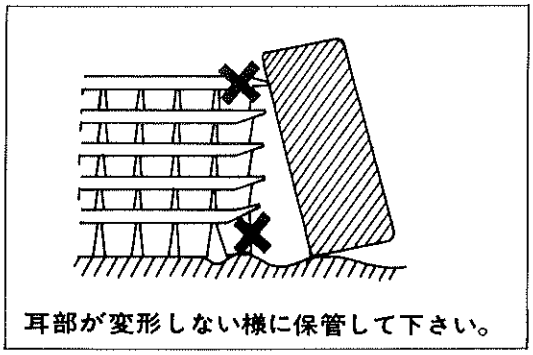
(5)播種ロールカバーは取外す必要はありませんが，万一取外した場合には，播種ロール面とカバーの間にスキ間がないように指で軽く押えて取付けて下さい。
強く押えつけると播種ロールの回転が重くなることがありますので注意して下さい。

(6)長時間の作業をすると，土押えロールの間に土が詰まる場合がありますが，掃除をする際はドライバー等で土押えロールの突起をこじて破損させないように注意して下さい。



■ 8. 保管時の注意

(1)苗箱は正しく保管して，特に**耳部の変形がないよう**気をつけて下さい。



(2)調量ツマミを〝多〟の方向へ廻して，**回転ブラシが播種ロールに当らないように**しておいて下さい。

(3)回転ブラシの**ベルト及び籾受は外して保管**して下さい。

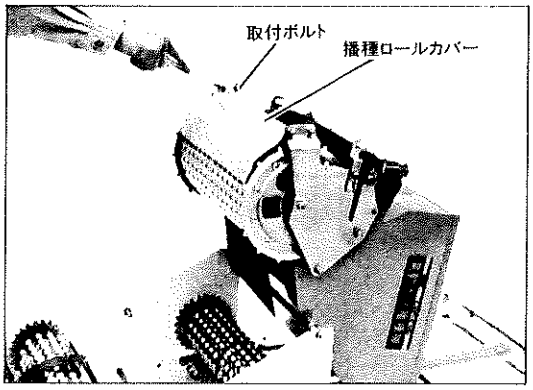
(4)ホッパーの上には重いものをのせないで下さい。

■ 9. 播種ロールの取替要領

- 平均2～3粒程度の播種量を希望する場合は，オレンジ色の〝2～3粒まき播種ロール〟を使用します。
- 平均3～4粒程度の播種量を希望する場合は，白色の〝3～4粒まき播種ロール〟を使用します。

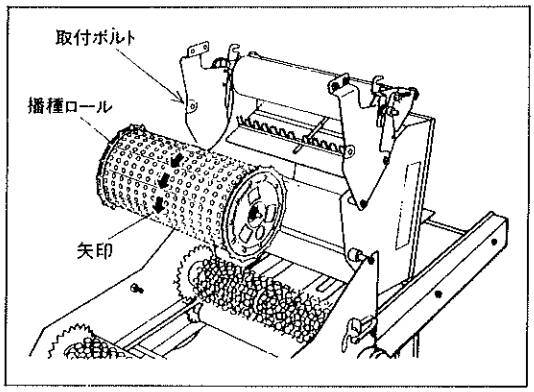
取　替　要　領

(1)取付ボルトを外して，播種ロールカバーを取外します。

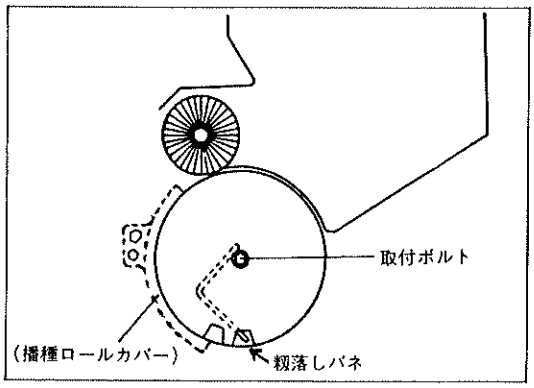


(2)播種ロール左右の取付ボルトを外して，播種ロールを取替えます。

(注)播種ロール取付の際は向きに注意して，矢印が図の向きになる様にします。

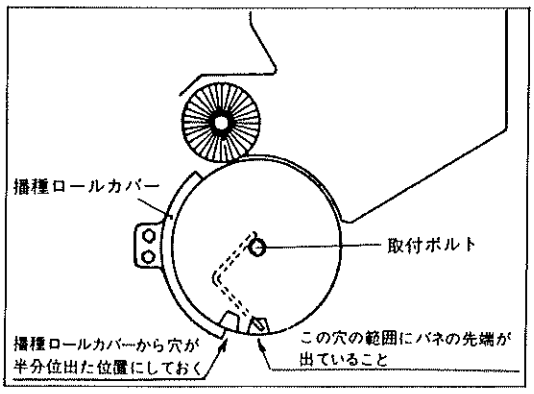


(3)籾落しバネを略図の位置（播種ロールカバーを取付けた時，籾落しバネの先端が見える位置）にしておいて，取付ボルトを仮締めします。



(4)播種ロールカバーを播種ロールに軽く接する程度に密着させて取付けた後，籾落しバネを右図の位置にして取付ボルトで固定して下さい。

(注)最後に播種ロールを手で廻してみて，籾落しバネが略右図の位置でパチン・パチンとはじいていることを確認して下さい。



純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、本機に一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷しておりますので、安心してご使用いただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や、機械の寿命を短くする原因になります。

この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打切り後９年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。